

# 令和6年度下半期の展示・普及イベントスケジュール

上半期(4月～9月)は、新博物館建設に伴う移転のため、展示・普及イベントはありません。

10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>10/5～1/26</b> 国際陶磁器フェスティバル美濃協賛展示 「ポスト織部の時代」(仮) @美濃焼伝統産業会館				<b>2/1～5/11</b> 市政70周年記念 「市無形文化財展」(仮) @美濃焼伝統産業会館	
<b>10/20～11/4</b> 国民文化祭特別展示 「桃山茶陶と現代茶陶」(仮) @土岐市文化プラザ 展示室 <b>10/20</b> 国民文化祭シンポジウム 「美濃桃山陶、どう料理する?!」 @土岐市文化プラザ ルナホール					
<b>定期講座</b> 毎月1回程度実施 ※詳細は後日チラシ、当館ホームページにて告知					

※展示・イベントの内容や期間が変更になる場合があります。詳しくは当館ホームページでご確認ください。

展示会

普及イベント

# 美濃陶磁歴史館だより

展示や講座、発掘調査の成果、文化財関係事業のお知らせ



織部焼の文様：幸七郎

## 新しい博物館の建設に向けて

## 44年の歴史に幕を下ろした美濃陶磁歴史館

令和6年4月1日から  
休館になりました

土岐市美濃陶磁歴史館は、昭和54年(1979)、泉町久尻に開館し44年が経過しました。歴史館の収蔵施設として使用している旧文化会館は、建設から51年とさらに古く、ともに文化財を保存・活用する施設として限界を迎えています。そこで土岐市では、これらの施設を

周辺の遺跡とともに地域の歴史文化・美濃焼の歴史を伝えていく「新しい博物館」へと建て替える計画を進めています。本号では、令和5年度いっぱい一時休館となった当館最後の展示会の様子や新博物館整備計画の現在の進捗、これからの動きなどをご紹介します。

## 地域資料を集めています

土岐市にできる新しい博物館のために、「美濃焼」と「土岐市の歴史・文化」に関連する地域資料について、市民の皆様からの情報提供・寄贈・寄託を募っています。

遺跡で採集した陶片などの出土品	古文書 古い帳簿	地域の祭り・風習に関する資料	郷土誌 やきもの関連書籍
陶磁資料 (陶芸作品や製陶所の製品)	美濃焼など 地域の産業の資料	昔の暮らしに関する資料	写真 (~平成時代)

こんな時もお連絡を!

- 古い家や蔵を壊す
- 遺品の中に古そうな資料がある...
- 古そうなものがたくさんある。汚れているし、ポロポロだし、なんだかよくわからない... そんなとき、捨てる前にお連絡を!

【ご連絡・お問合せ】土岐市美濃陶磁歴史館  
TEL: 0572-55-1245 メール: toki\_museum@toki-bunka.or.jp

## ときはくサポーター (ボランティア) 募集中!

新しい博物館を一緒に楽しみ、盛り上げる仲間を募集しています。ワークショップのお手伝いや遺跡の勉強会などの自主活動、何かの形で関わりたい!という方はお気軽にご連絡ください。

## 最後の展示会で重要文化財 2,000点並べてみた

令和6年(2024)1月7日から3月31日までの期間、「開館44年収集の軌跡III 挑戦!重要文化財2,000点並べてみる」と題し、当館の最後を締めくくる展示会を開催しました。開館以来、収蔵品の主軸としてきた国史跡「元屋敷陶器窯跡」の出土品のうち、土岐市が所有する国の重要文化財の全点展示を試みたものです。新しい博物館では、これらの重要文化財を常に公開する展示室を計画しており、それに向けたプレ展示としての展示会でもありました。展示室に入った瞬間「おお!」と声を上げ、2,000点という物量に圧倒された来館者の姿が印象的でした。



展示会ポスター



展示会場一面に、国重要文化財「元屋敷陶器窯跡出土品」の陶片が並んだ



3/3 ギャラリートーク『京都市立芸大生が表現した桃山デザイン』(上)と学生の作品(下)



新博物館の「重要文化財展示室」に向けたプレ展示。透明なケースに陶片を並べるとどう見える?



3/17 トークセッション『重要文化財2,000点、どう料理する?!』愛知県陶磁美術館総長伊藤嘉章氏と現学芸員たち





# 新博物館「トキハク」 NEWS

新博物館整備計画のこれまでとこれからの動きをお伝えします。

# 新博物館「トキハク」 ってなに？

老朽化した土岐市美濃陶磁歴史館（泉町久尻）が新しい博物館へと生まれ変わるプロジェクトです。理念は「開かれた扉」。誰もが学び、参加し、楽しめる居心地の良い場所づくりを目指します。美濃陶磁歴史館と同じ敷地に建て替えとなり、令和10年の開館を目指しています。

令和5年度  
(2023)

基本設計で決まったこと

## 新博物館の目玉は2,000点を超える国重要文化財！

新博物館の建設地から徒歩5分ほどのところにある国史跡「元屋敷陶器窯跡」は、新館とあわせて来館者に楽しんでほしい場所です。この遺跡の出土品の一部、2,431点が国重要文化財に指定されています。新博物館では、この重要文化財のすべてを常に来館者に観てもらえるよう、「重要文化財展示室」を設ける計画です。現在、本当にすべて展示できるのか、どんな見せ方をするのかなど実現に向けて検討中です。



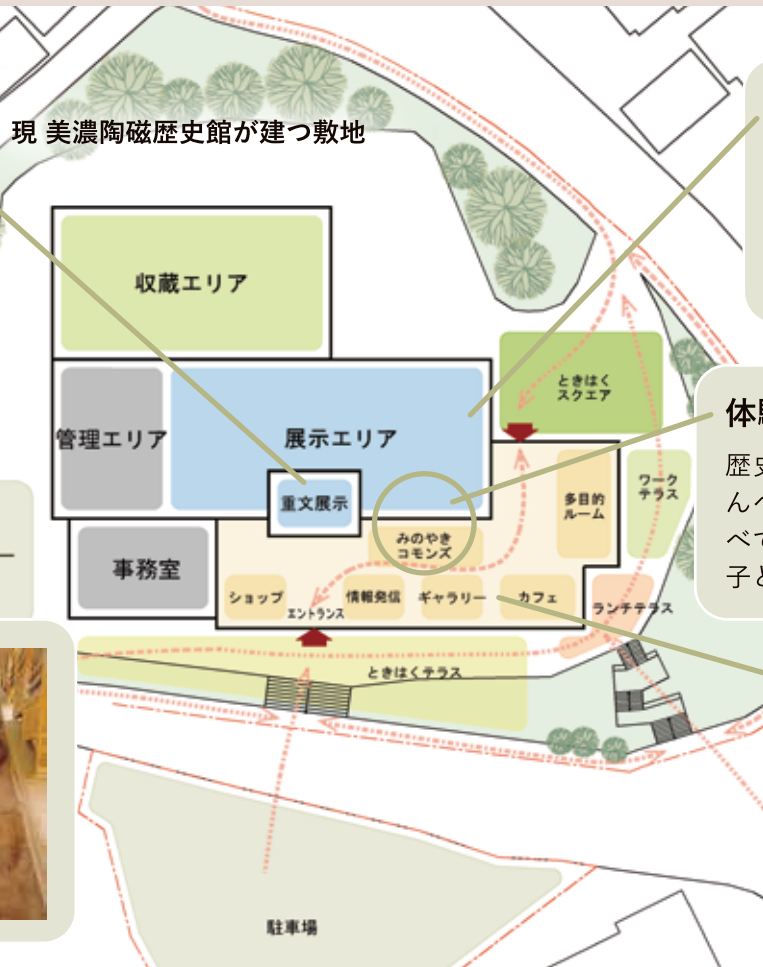
▶重要文化財展示室イメージベース

## 周辺の遺跡をもっと身近に！

新博物館の建設地から徒歩10分圏内には、2つの国史跡と1つの市史跡があります。これらの史跡を屋外展示として、展示室と一体となって見学できるような仕組みを検討しています。



▲国史跡「乙塚古墳と段尻巻古墳」  
▶国史跡「元屋敷陶器窯跡」



## 地域の歴史・文化、美濃焼の歴史を伝える常設展示室ができます！

美濃陶磁歴史館にはなかった常設展示室。新博物館では、子どもたちや市民の皆さん、ビジターが地域を知る手がかりとなる歴史展示室を設けます。

## 体験して遊びながら学べる！

歴史展示室内には、体験し楽しみながら学べる「はっけんベース」、ときはくひろばには、興味を持ったことを調べて深めることができる「みのやき commons」を設けます。子どもから大人まで楽しめる空間を目指します。

## みんなの憩いの場「ときはくひろば」(仮)

エントランスから展示室をつなぐ「ときはくひろば」は、みんなの憩いのスペースです。リモートワークや自習をしたり、散歩の途中に休憩したり…学ぶだけではない博物館の使い方もできます。

## 新博物館整備計画のプロジェクトロゴができました！



この地にある多様な歴史・文化、多様な美濃焼の姿、それを生み出してきた人。これらに気づき、学ぶ。そして、これからの土岐の未来を考える。そんな場となる博物館を目指します。

## 新博物館プロジェクト これまでの動き



## これからの動き (予定)

## どんなふうにする？みんなが楽しむ博物館を考える

新しい博物館の交流スペースや敷地周辺の遺跡の楽しみ方について、市民の皆さんと考えるワークショップを行いました。どんな人が、どんな時、どんなふうに使えると良いだろう？こんなことができたら楽しそう！など、「学ぶ」だけではない博物館の楽しみ方のアイデアを出し合いました。

第1回



12/10 第1回ワークショップでは、新博物館のオープンスペースで何をしたいかを考えました。放課後の勉強スペース、読書会、フリーマーケットなど、夢が広がりました。

第2回



2/12 第2回ワークショップでは、バックヤードや展示室、建設地の立地、周辺の遺跡を学芸員と歩き、「案内してもらいながら見学すると、より楽しめる！」とガイドの必要性を実感しました。

令和6年度も引き続きワークショップを行います。ご興味のある方は、当館ホームページで情報をチェック！

## 休館中の学芸員のおしごと

美濃陶磁歴史館は3月で一時休館となりましたが、学芸員の仕事はなくなるわけではありません。新博物館開館まで、学芸員が何をしているのかをご紹介します。

### 仮事務所・仮保管場所への引越し



美濃陶磁歴史館の収蔵品（発掘出土品の一部）

新博物館が現敷地に建設されることから、今年の夏頃には、事務局は仮事務所へ、大量の収蔵品は仮保管場所へ移転します。現在は、そのための引越しの準備を進めています。新博物館建設後には、仮保管場所の資料を新館へ移す作業が待っています。

### 新博物館の中身を考える

収蔵庫や調査室などのバックヤード、来館者の憩いのスペースなども大事な空間です。館全体の機能を考え、必要な広さや設備・什器を一つひとつ検討していきます。また、展示制作のための資料収集や調査研究、ボランティアの育成など、ソフト面の機能充実のための準備も行います。



新博物館会議風景

他館での館外展示や新博物館PRイベントも実施します！